

2026 年度学校推薦型選抜試験

小論文

注意事項

- 1 小論文の問題冊子には、課題と下書き用紙がある。白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。
- 2 別に解答用紙 1 枚があり、解答はすべてこの解答用紙の指定欄に記入すること。指定欄以外への記入はすべて無効である。
- 3 **解答用紙の所定欄に受験番号を記入すること。氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号が誤っている場合や無記入の場合は、小論文の試験が無効となる。**
- 4 試験終了時には、問題冊子の上に解答用紙を裏返して置くこと。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。
- 5 問題冊子は持ち帰ること。

課題

以下の文を読み、問題に答えなさい。

高校生ぐらいまでは、フィーリング共有性の高い、同世代で自分と同質の小さな集団のなかで自己完結し、そこで閉鎖的な仲間集団を作って生活していることが多いと思います。

しかし、学校を卒業してやがて社会に出れば、自分たちと同じ属性を帯びる集団以外の、さまざまな世代や違う価値観をもった人たち、違う地方や、場合によっては外国からきた人たちなどに出会い、関係を作っていかななくてはなりません。

気が合うか合わないかというフィーリングの共有というよりは、役割を分担しながら一緒に仕事をして業績を上げることが第一に重要になる「社会的な関係」にはいると、フィーリングの合う人だけ付き合い合うというわけにはいきません。だからそれまでに、自分のなかに異質なものを取り込めるようなある種の構えというものが、自分の中にどうしても必要になってくるのです。

となると、やはり単に「こいつは私と同じだ」という同質性だけに頼って友だちをつなげていくような親密な関係の作り方だけをしていると、いきなり社会に出たときにどうしても戸惑いが大きくなります。

異質なものをさまざまに取り込む力がないと、つながりを保てなかったり、異質な他者との交流といううま味も、味わえなかったりします。

やはり、関係の作り方のポイントとして、異質性、あるいは他者性というようなものを少しずつ意識して、それを通してある種の親しさみたいなものを味わっていくトレーニングを少しずつ心がけていくことが大切です。最初からというのは無理かもしれないけれど、少しずつ慣れていくのです。

人との関係を作っていきたい、つながりたいという積極的な思いが一方であり、でもやっぱり傷つくのはいやだといった消極的な恐れ感情もある、それが人間です。私の印象では、若い世代であればあるほど、傷つきやすさというものを内面的に持っている人が増えているのかなあ、という気がしています。「傷つきやすい私」が増えているように思うのです。

「人とつながりたい私」と、でも「傷つくのはいやだという私」という一見すると矛盾した自我のあり方と、自分自身でどう折り合っていけばいいのでしょうか。やはり基本的には、この人は自分にとって「信頼できる他者」だ、と思える人を見つけるということが絶対必要になると思います。

しかしその場合、信頼できる「私と同じ人」を探すというよりは、信頼できる「他者」を見つけるという感覚が大事です。

菅野仁著『友だち幻想』2018年 筑摩書房より抜粋、一部改変

問題 筆者が述べていることをまとめたうえで、「信頼できる他者」についてあなたの考えを600字以内で書きなさい。

